



電動ダンパー仕様で補足説明書が同梱されているものは、それに基づき電気工事をおこなってください。

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすることを生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**
- 注意：人が傷を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。**
- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
- 絵表示の例
- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
 - 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
取付注意
- 交流 100V 以外では使用しないこと
取付注意
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
取付注意
- アースを確実に取り付けること
取付注意

- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すこと
取付注意
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
取付注意

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けすること
取付注意
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けすること
取付注意
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
取付注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
取付禁止
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
取付禁止
- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
取付禁止
- 取扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
取付注意
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
取付注意
- 落下によりけがをすることがあります
取付注意
- 部屋の取り付けは確実におこなうこと
取付注意
- 落下によりけがをすることがあります
取付注意

取り付け上のお願ひ

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等】
 - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
- 流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは詰まりして排気性が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじりやすく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用座付ねじが確実に届くことを確認してください。取付ベース・取付ベース引掛線の取付用座付ねじは 45mm の長さのものと同梱されていますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座付ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
- レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。ただし、防火性能認定品または特定安全 IH 調理器適合品の調理機器の使用に限り、60cm 以上、80cm 未満で設置することが可能です。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集しきれませんので、お部屋の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：勾配 1/100～1/50 程度）。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。レンジフードへの通電が遮断されますと、洗浄時期の表示（洗浄ランプ）を正しくお知らせできなくなります。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。
- 風量おまかせ運転（風量自動切替）機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

取り付け前の調査と準備

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
取付注意
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
取付注意
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すこと
取付注意
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けすること
取付注意
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
取付注意

注意

- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
取付禁止
- 取扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
取付注意
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
取付注意

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが重要です。

製品単体質量	600 間口	750 間口	900 間口
製品単体質量	23.0 kg	27.0 kg	30.0 kg

■板張りの場合

- 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
- 板厚が 20mm 以上の場合は補強板の必要はありません。
- 取付面の躯体（木材の柱または間柱）の位置を確認してください。
- 製品の荷重は必ず 450mm 以上の間隔のある躯体（木材の柱または間柱）に持たせるようにしてください。450mm より狭い間隔で取り付けると強度が不十分となり、異常な振動の発生や前ダクト等の変形の原因になります。

■コンクリート、タイル壁の場合

- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カルアラブ等を使用し固定してください。

■土壁の場合

- 柱など固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2 別売部品の準備
本体工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

3 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上からレンジフードの下端まで 80cm 以上です。※火災予防条例では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。ただし、防火性能認定品の調理機器の使用に限り、調理機器の上からレンジフード下端まで 60cm 以上とすることが可能です。

4 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流：単相 100V）コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

お願い
必ずアース（D 種接地工事）をしてください。レンジフードが誤作動することがあります。

各部のなまえ

調整目隠し板上
調整目隠し板下
リモコン・電動信号受信部
スイッチ
フード
温度センサー
照明
オイルパネル
煙道
トリレカバー
■自動洗浄部(トリレカバー内)
排水トレイ
給湯トレイ
取付ベース
本体
本体吊り金具
電源プラグ
電動線
CO₂検知用吸気口
CO₂センサー
取付ベース
本体
本体吊り金具
フード吊り金具
CO₂検知用吸気口
CO₂センサー
取付ベース
本体
本体吊り金具
フード吊り金具

製品寸法図

(単位：mm)

750/900 間口

600 間口

※1 取付ベース・取付ベース引掛線の取り付けは、ねじとねじの間隔を 450mm 以上離して取り付けください。（取付推奨範囲）
※2 ※部寸法は排気口取付位置の可動範囲です。可動範囲は排気口可動範囲の斜線部分になるためご注意ください。
※3 前方排気、後方排気時は、製品高さ 600mm 以上の対応となります。ただし後方排気時は別売電動シャッターを使用される場合は、製品高さ 650mm 以上の対応となります。

付属品

- 座付ねじ (φ 5.1 × 45) 4 本
取付ベースとフード吊り金具との固定に使用します。
- 低頭ねじ (M4 × 8) 4 本
別売 L 形ダクトの取り付けに使用します。
- 低頭ねじ (M4 × 16) 2 本
排気口取付板の取り付けに使用します。
- 取付ねじ (M5 × 12) 2 本
取付ベースとフード吊り金具との固定に使用します。
- 引掛ねじ (M5 × 12) 2 本
取付ベースと本体との固定に使用します。
- ソフトテープ 1 本
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使用します。
- 排気口 1 個
本体とダクトの接続に使用します。逆風防止シャッター付きです。
- 取付ベース 1 個
本体の取り付けに使用します。
- 調整目隠し板上
調整目隠し板下
- 幕板セット 1 組
本体正面の目隠しに使用します。（セット内容）
 - ・幕板……………1 枚
 - ・調整目隠し板上（左・右）…各 1 個
 - ・調整目隠し板下（左・右）…各 1 個
 - ・取付ねじ (M4 × 10) …… 2 本
 - ・木ねじ (φ 4.1 × 13) …… 6 本
 - ・アルミテープ…………… 1 本

取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります

付属品を確認します。梱包箱から付属品を取り出し、上頂の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い

- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
- 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。（図 1）

2. 取扱説明書および保護パッドの取りはずし

1 保護用クッション材をいったん取りはずします。（図 1）

その後、整流板に貼り付けてある取扱説明書をはずします。（図 2-1）

2 付属の取扱説明書を参照して整流板をはずし、煙道の保護パッドをはずします。（図 2-2）

3 保護パッドをはずしたあとは整流板をもとどおりに取り付けてください。（図 2-3）

4 製品保護のため、はずした保護用クッション材と固定テープをもとの状態に取り付けてください。（図 2-4）
※ 保護パッドはもとに戻さず、廃棄してください。

お願い

- 保護用クッション材と固定テープは「7. トイレカバー」固定テープおよび排水トレイ・給湯トレイ固定テープの取りはずしまでははずさないでください。（図 2-4）

3. 排気方向の決定

警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けすること
取付注意
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すこと
取付注意

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
取付禁止

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。（ダクトの風漏れ防止のテーピング作業ができるよう、壁穴は大きめに開けてください。）また、コンセントの位置を確認してください。

2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトをレンジフードの上部に突き出すようにセットして周囲を仕上げてください。（コンクリート、タイル、土壁の場合）

(単位：mm)

上方排気
側方排気
後方排気

上面図
側面図

取り付けかたは裏面に続きます。

